

1.1 誤解のない世界はあり得るか — 誤解が存在する理由

ところで、「すべての人が、すべての事柄について正しい理解をしている状態がありうるでしょうか」。世間に浮遊している誤解をイメージすれば、誤解のない世界はあり得ないと思われまます。

もし、そういう世界があるとすると、入社試験を行うと全員が百点満点だから合格者を決めることはできないとか、おそらく人間の能力に差はないことになり、どこかで矛盾をきたすことになるでしょう。

さらに、この事例を考え続けていくとどうなるでしょうか。人から個性がなくなってしまう、誰と結婚したら良いか、誰と友達になってよいか、判らなくなってしまう、社会が機能しなくなりそうです。

人間の心理は状況によって刻一刻と変化しますので、誰もがいつも同じ考えを持ち続けることなど考えられないし、誤解についてもそういう状態は考えられません。

何を言いたいかという、誤解は常に存在し、きっと存在する深い理由がある、ということです。闇があるから光は意味を持つ。

嘘があるから真実が光る。「嘘から出た真」という諺もあります。誤解があるから正しい理解が可能となる、ということになるのかもしれませんが。

言い換えれば、「誤解は世界観を広げる」ということでしょうか。

誤解は正解だけでは決して見られない世界を見せてくれそうなのです。

ここで、これらの誤解の例を挙げておかないと話が抽象的になり過ぎ、つかみどころがなくなるという懸念も出てきます。代表的な例を列記しておきましょう。

イ) 放射線はどんなに少ない線量でも怖い。

ロ) 放射性物質はどんなに微量でも環境に放出するのは良くない。

ハ) 原発は原爆のように爆発するかも知れないから、原子炉は怖い。現に故障は絶えず起きている。

これらが原子力に関する誤解の基本パターンでしょう。多くの誤解はこのような放射線と原発に関する思いから様々な形を取って派生してきます。

これらは「何かについての‘空気’」と関連が強く、‘空気’によって先鋭化され易いのです。‘空気’に連動する誤解は、人々の振舞、発言、などを金縛りにします。